

中学校美術

1 教育課程の改善のポイント

- 育成する資質や能力を明確にして題材の工夫や指導の改善を図る。
- 言語活動に関する指導を充実する。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感できる指導を充実する。
- 美術文化についての理解を深める指導を充実する。
- 〔共通事項〕をふまえて、題材の工夫や指導の改善を図る。

2 全面実施に向けて取組が求められること

(1) 移行期間における指導のポイント

ア 複数の学年の目標及び内容がまとめて示されている美術については、新学習指導要領が全面実施された際の指導内容を見通して、特に移行期最終年度と本格実施初年度の接続に留意しながら移行期間中の指導計画を作成しましょう。

- ・平成21年度から可能な限り新学習指導要領による指導に取り組みますが、現行の指導内容と新しい指導内容を相互に確認し、学習漏れのないように指導計画を作成する必要があります。

例えば、現行学習指導要領で第2・3学年の「A 表現」に示されていた「環境のデザイン」についての学習は削除し、「B 鑑賞」に位置付けて学習の充実を図ったので、移行期間中に「A 表現」を新学習指導要領で、「B 鑑賞」を現行学習指導要領で行った場合、環境のデザイン等に関する学習が行われないことが考えられるので配慮する必要があります。

(2) 適切な年間指導計画の作成と題材構成の工夫

ア 表現と鑑賞の指導の関連を図りましょう。

- ・表現及び鑑賞の各内容における指導のねらいを十分に検討し、それを実現することのできる適切な題材を設定し、系統的に指導計画に位置付けましょう。
- ・その際、表現と鑑賞の相互の関連を図り、鑑賞することで表現の能力がより高められるようにするとともに、表現することで鑑賞の能力もより高められるよう十分配慮しましょう。

イ 〔共通事項〕を適切に位置付けましょう。

- ・〔共通事項〕は表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質や能力を示したものであり、表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付け、指導計画を作成しましょう。
- ・〔共通事項〕を「A 表現」及び「B 鑑賞」の学習の中で十分に指導するためには、具体的な学習活動を想定し、〔共通事項〕に示している「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」や「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」をどの場面で指導するのか明確にして指導計画の中に位置付ける必要があ

ります。

- ・その際、〔共通事項〕の視点で指導を見直し学習過程を工夫することや、生徒自らが必要性を感じて〔共通事項〕の視点を意識できるような題材を工夫するなどして、形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて表現及び鑑賞の学習に取り組むことができるようにすることが大切です。
- ・また、小学校図画工作科の〔共通事項〕を踏まえた指導にも十分配慮する必要があります。

ウ 「A 表現」の(1)及び(2)と、(3)は原則として関連付けます。

- ・表現題材を設定する場合、「A 表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する項目と、(3)の創造的な技能に関する項目はそれぞれ単独に指導するものではなく、(1)又は(2)の一方と、(3)は原則として関連付けて行いましょう。
- ・しかし、時には指導の効果を高めるために、「A 表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する指導内容や、(3)の創造的な技能に関する指導内容のみを短時間で単独に扱った題材の設定も考えられます。

(例) ①光と影による明暗の効果や対象の構造をとらえるために紙コップのスケッチを行う。 ⇨ (3)の創造的な技能に関する指導内容のみ。

②「使い古した靴を描こう」のように主題をしっかりとらせて描かせる。

⇨(1)と(3)を組み合わせた指導内容

③ある場面を切り取って写真表現で表す。⇨技能はシャッターを押すだけなので(3)の指導内容はない。(1)の指導内容のみ。

④コンピュータ画面でデザインの構想を練る。⇨コンピュータの操作は単純作業だけだとすれば(3)の指導内容はない。(2)の指導内容のみ。

- ・①のような場合には、この学習がどこでどう生かされるのかを明らかにして、他の題材との関連や配当時間などを十分に検討し、指導計画を作成することが重要です。

エ 描く活動とつくる活動のいずれも経験させましょう。

- ・「描く活動」とは、スケッチや絵、グラフィックなデザインなど平面上に描くことを主としていますが、立体の表面に描くことも含まれます。
- ・「つくる活動」とは、主として彫刻や工芸、立体的デザインなどの立体的な表現のことで
- ・また描く活動とつくる活動の双方を取り入れた表現も可能です。(表現方法を幅広くとらえることが大切)
- ・各内容の指導においては、描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにし、描く活動とつくる活動の学習に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成することが大切です。

オ 第1学年の指導計画について

- ・第1学年においては、美術の表現の能力が幅広く身に付くようにするため、特定の表現分野のみに偏ることなく、「A 表現」(1)及び(2)それぞれにおいて(3)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにしましょう。

- ・したがって、年間45単位時間という時数の中ですべてを扱うことになるため、一般的に一題材に充てる時間数は少なくなるものと考えられます。
- ・学年の目標が実現されるように、比較的短時間ででき、効果的に表現の能力が身に付くような題材を適宜取り入れ、指導計画を作成する必要があります。

カ 第2学年及び第3学年の指導計画について

- ・第2学年及び第3学年では、より質の高い学習を目指すため、1題材に時間をかけて指導する必要があります。
- ・そのため、各学年において内容を選択して行うことが可能であり、2学年間ですべての事項を指導することとしています。
- ・その際、指導計画の作成に当たっては、学習の内容が偏らないように、第2学年及び第3学年の各学年においては、「A表現」(1)及び(2)の双方を扱うようにするとともに、「A表現」全体を通して描く活動とつくる活動が一度は行われるようにしましょう。
- ・そして、2学年間で「A表現」(1)及び(2)それぞれにおいて(3)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにし、調和のとれた指導計画を作成することが大切です。
- ・つまり、第2学年で(1)において描く活動を計画した場合には、(2)ではつくる活動を計画し、第3学年では、(1)でつくる活動、(2)で描く活動を計画することになります。

「A表現」の指導計画の作成例Ⅰ

A表現	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○			○
第3学年		○	○	

「A表現」の指導計画の作成例Ⅱ(第1学年は同じ)

第2学年		○	○	
第3学年	○			○

- ・第1学年の場合、「A表現」(1)の指導事項は、ア(主題の発想)、イ(主題を基にした構想)の二つです。したがって、通常1題材1事項の中で行われるため、例えば、アを描く活動で行えば、イはつくる活動で行うことになり2題材となります。
- (2)については、ア(構成や装飾)、イ(伝達)、ウ(使用)の三つがあり、それを描く活動とつくる活動と組み合わせることになります。例えば、ア、イを描く活動、ウをつくる活動とすると3題材になり、合計で5題材となります。
- しかし、アとイ、イとウを組み合わせた題材を工夫することも考えられるため、最低限、(1)及び(2)のそれぞれに(3)を関連付けた描く活動とつくる活動の4題材が必要と考えら

れます。

カ 「B 鑑賞」の授業時数の確保

- ・鑑賞の学習を年間指導計画の中に位置付け、鑑賞の目標を実現するために必要な授業時数を定め、確実に実施するために、鑑賞と表現の関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫する必要があります。
- ・鑑賞に充てる時数は示されていませんが、学習指導要領に示された内容を生徒に身に付けることができるかどうかを考え、各学校が適切かつ十分な時数を確保しましょう。その際、年間時数の1/5程度を目安とします。

キ 新しく入った内容について

- ・第1学年の美術文化に関する鑑賞の学習など、具体的な題材を開発する必要があります。

【参考資料】

- 【資料1】PDF「年間指導計画例 第1学年、第2学年、第3学年」
- 【資料2】PDF 年間指導計画例の内容構成
(「埼玉県中学校教育課程編成要領(平成21年3月) P78~P84 各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動編～第1章 第6節 美術」より)
※年間指導計画には、題材について小学校の題材との関連が示されていたり、題材ごとに〔共通事項〕が具体的に位置付けられたりしており、参考になる。

【資料1】

3 年間指導計画例
第1学年

☑ 小学校との関連 ㊦ 描く活動 ☑ つくる活動

学期	題材名等(時間)	領域・項目・事項	題材について
1	美術の学習を始めよう —オリエンテーション— (1)	B鑑賞 (1)アイ	・中学校の美術の学習を始めるに当たり、参考作品の鑑賞を通して学習のねらい、学習方法や学習内容を理解させ、美術の学習に対する意欲を高める。 ・知的財産権や肖像権などについても学ばせ、自己や他者の創造物を尊重する態度を育てる。 ・学習アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。
	広がりのある風景 —遠近法を学ぶ— ㊦ 感じ取る・考える ㊦ 小5 いつも見ている風景を (6)	A表現 (1)アイ (3)アイ	・透視図法や空気遠近法などを理解し、遠近感のある風景という主題で表現を工夫した風景画を描く。 ・水彩絵の具や筆の使い方をしっかり身に付けさせ、自分の思いを生かして的確に描けるようにする。
	埼玉県立近代美術館に行こう —実物の美術作品を鑑賞する— ㊦ 伝える・使う ㊦ 小6 光をみつめて (3)	B鑑賞 (1)アイ A表現 (2)アイ (3)アイ	・埼玉県立近代美術館を訪問し、実物の美術鑑賞の機会をもつ。美術館訪問の実現が難しい場合は複製画貸し出しシステムを活用するなど、美術館との連携を工夫する。 ・訪問後のレポート作成については、漫画やイラストレーションなど多様な表現の工夫をさせる。
	季節の色・季節の形 —色彩を学ぶ— ㊦ ☑ 伝える・使う ㊦ 小4 絵の具で面白マジック (5)	A表現 (2)アイ (3)アイ B鑑賞 (1)ア	・色彩の学習を通して色のもつ性質や感情を学び、色によって形の印象が変化することを実感させる。 ・色彩の学習を踏まえ、好きな季節を形や色彩の性質を生かして抽象的に表現する。 ・段ボールやボール紙など様々な紙素材やモダンテクニックの技法を使って伝えたい内容を美しく構成する。 その際、小学校での学習経験を生かすようにする。
2	ピアノを奏でる手 —イメージを形にしよう— ☑ 感じ取る・考える ㊦ 小5 願いを形にたくして (6)	A表現 (1)アイ (2)アイ B鑑賞 (1)ア	・ショパンのピアノ曲を聴き、感じ取ったことを基にイメージをふくらませ、自分の表したい主題を生み出し、粘土で「手」を制作する。 ・粘土という可塑性のある素材の特徴を生かし、立体としての量感・塊・動きを意識させる。
	私の友だち、紹介します —身近な人物を描こう— ㊦ 感じ取る・考える ㊦ 小6 気分は芸術家 (5)	A表現 (1)アイ (3)アイ B鑑賞 (1)ア	・感性を働かせて身近な友人を見つめ、特徴や雰囲気をとらえて表現する。 ・色鉛筆、ペン、パステルなどの材料を体験させ、材料や用具の効果的な生かし方を考え自分の意図する形や色に近付くよう効果的に表現する。 ・作品の鑑賞を通して作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品に対する思いや考えを説明し合う。
	炎がつくる光の造形 —焼き物でランプシェードをつくらう— ☑ 伝える・使う (5) ㊦ 小6 のばす、まるめる、くっつける	A表現 (2)アウ (3)アイ B鑑賞 (1)ア	・陶土の感触を楽しみながら焼き物の成形から焼成までの制作過程を理解して制作する。 ・白熱灯と蛍光灯・ろうそくの明かりが作り出す雰囲気の違いを感じ取らせ、光の演出を考えたランプシェードを制作する。
	なるほど!デザイン —暮らしに生きる美術— (1)	B鑑賞 (1)アイ	・食器、文具など身近な生活の中にあるデザインや工芸に見られる美しさと機能性の調和を味わわせる。 ・使う人に対する作者の心遣いに気付かせ、生活を楽しく豊かにする美術の働きを実感させる。
3	描いて写して —版による表現を楽しもう— ㊦ 感じ取る・考える ㊦ 小5 ほって、刷って、またほって (6)	A表現 (1)アイ (3)アイ B鑑賞 (1)ア	・版による表現の様々な方法を学び、その特徴を生かした表現を通して版による表現に対する興味関心を高める。 ・物の大きさの違いや形の特徴をとらえさせる「立て」を学び、身近なものの形をよく観察したり、組み合わせたりして木版に表す。 ・刃物の使い方や保管についての安全指導を徹底する。
	粋なデザイン —日本の伝統模様を学ぶ— ㊦ 小5 私のまわりの日本探し (2)	B鑑賞 (1)アイ	・麻のようにすくすく育ってほしいとの願いから赤ちゃんの産着によく用いられる「麻の葉」など、単純で美しく、完成度の高い日本の伝統模様のよさを学ぶ。 ・調べ学習と発表を通して伝統模様が現代の生活に息づいていることに気付かせる。
	思いを込めて贈ります —伝統模様を生かしたコースターづくり— ☑ 伝える・使う ㊦ 小6 板を切ったり、組み合わせたり (5)	A表現 (2)アウ (3)アイ B鑑賞 (1)ア	・身近な人へ贈り物をするという目的と条件の基に、伝統模様の学習で学んだことを生かし、感性を働かせて発想する。 ・木の特徴や、彫刻刀などの扱い方を理解して表現する。 ・1学年最後の課題として、変更を確認する学習アンケートを実施する。

主な指導のねらい	主な指導内容	〔共通事項〕
<ul style="list-style-type: none"> 美術の学習を始めるに当たり、楽しく美術の活動に取り組み、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 感性や想像力を働かせ、作者の心情や表現の工夫を読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者が作品に込めた心情を読み取ろうとする作品の見方と感じ方 美術科の学習内容と方法 〔共通事項〕例 鑑賞の場面では、形や色彩の特徴に視点をおき、よさを味わい感想を述べる。イ 	<p>アイ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。</p> <p>〔共通事項〕例については、主に顕著なものを示した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> スケッチの活動に親しみ、楽しませる。 主題を基に表現を工夫して描かせる。 小学校の学習をふまえ、水彩絵の具で一人一人が自分の思いを生かして的確に表現させる。 作品に込めた思いを互いに発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 透視図法・空気遠近法などの遠近法の表現 絵の具や筆の使い方と見通しをもった制作手順 〔共通事項〕例 創造的な技能を働かせる場面では、水彩絵の具の性質を生かして表現する。ア 	
<ul style="list-style-type: none"> 美術館で複数の作品を鑑賞する中で、共通して見られる表現の特性や美意識などに気付かせ、美術文化に対する関心を高めさせる。 伝えたい内容をわかりやすく表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な作品の見方や感じ方 〔共通事項〕例 鑑賞の場面では、形や色彩の特徴に視点をおき、よさを味わい感想を述べる。イ 	
<ul style="list-style-type: none"> 色の三属性などの学習を通して、色の効果について鑑賞する視点を与え、形が色によってその印象を変化させることを実感的に理解させ、楽しませる。 素材や技法を生かす表現の能力を育て、計画を立てて表現することを学ばせる。 鑑賞では作者の意図と表現の工夫を互いに説明し、話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 色の三属性、色の感情、性質 ポスターカラーの使い方とスパッタリングやマーブリングなどのモデテクニク 様々な紙素材の効果的な使い方 〔共通事項〕例 創造的な技能を働かせる場面では、紙などの材料の質を生かして表現する。ア 	
<ul style="list-style-type: none"> 音から感じたことを基に想像をふくらませ、意欲的に対象のイメージをとらえさせる。 音から多様な印象をとらえて構想を練らせる。 粘土という素材のよさを生かし、立体の表現の方法と効果を考えさせる。 互いに作品を鑑賞し合い、見方や感じ方を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことから主題を見出すこと いろいろな角度から形体をとらえる立体表現の方法 立体としての量感・塊、動きの表現方法 〔共通事項〕例 創造的な技能を働かせる場面では、粘土の性質を生かして表現する。ア 	
<ul style="list-style-type: none"> 対象を見つめ、自分なりの主題をもって活動に取り組みさせる。 身近な人をじっくりと観察し、内面をイメージし、表現の工夫を考えさせる。 材料の可能性を追求し、よさを生かして表現させる。 作品に込めた思いを説明し合わせ、見方や感じ方を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物のバランスのとらえ方と、対象をよく観察し主題を見出すこと 色鉛筆、ペン、パステルなどの材料の効果的な生かし方 作品に対する思いを説明する方法 〔共通事項〕例 創造的な技能を働かせる場面では、パステルなど材料の性質を生かして表現する。ア 	
<ul style="list-style-type: none"> 焼き物という素材のよさを感じ、楽しみながら制作させる。 光の性質やそれがもたらす感情を理解し、よさを生かして構想を練らせる。 機能的で美しい作品を制作させる。 心豊かな生活や心の潤いにつながるようなよさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 焼き物ができるまでの制作過程 手びねり、ひもづくりなどの基本的な陶芸の技法 光がつくり出す雰囲気とその演出 〔共通事項〕例 構想する場面では、光の性質とそれがもたらす感情を理解して、表現を考える。ア 	
<ul style="list-style-type: none"> 生活を美しく豊かにするためのデザインや工芸への関心を高めさせる。 身近な日用品も機能美や使う人の気持ちを考えてデザインされていることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから生まれる美しさへの気付き 日常生活を楽しくしようとする美意識 〔共通事項〕例 鑑賞の場面では、造形の要素について話したり他の生徒の意見を聞いたりして理解を深める。イ 	
<ul style="list-style-type: none"> 身近なものをじっくりと見つめ、主題を見出させる。 全体と部分の関係を考え、創造的に構成を工夫させる。 木版画の表現のよさを感じながら、見直しをもって制作させる。 互いに鑑賞し、表現の工夫を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 凹版、凸版などの様々な版表現 鉛筆などを使った大きさの違いや傾きのとらえ方 木版画の制作過程と道具の扱い方・技法 〔共通事項〕例 創造的な技能を働かせる場面では、木版画がもたらす感情を生かして表現する。ア 	
<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統模様が多くが動植物や自然現象などを豊かに発想したものであることに気付かせ、そのよさを味わわせる。 日本的なイメージとその根拠を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの日本の伝統模様とその発想源 日本的なイメージのとらえ方 レポートのまとめ方と発表会の方法 〔共通事項〕例 鑑賞の場面では、特徴からとらえたイメージなどを基に話したり、他の生徒の意見を聞いたりして理解を深める。イ 	
<ul style="list-style-type: none"> 「粋なデザイン」の学習を生かして、形で気持ちを伝えるデザインの発想を深めさせる。 目的や条件を基に、美意識を働かせ、表現の構想を練らせる。 他者の立場に立ったわかりやすさや美しさを工夫して表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用する者の気持ちを考える構想の方法 薬研彫りなどの基本的な木彫の技法 デザインの鑑賞と発表の仕方 〔共通事項〕例 使用する者の気持ちを考えて発想する場面では、形に注目し効果的に生かす方法を考える。ア 	

学期	題材名等(時間)	領域・項目・事項	題材について
1	日本の魅力 —日本美術の流れ— (2)	B 鑑賞 (1)アウ	・日本美術の時代的な大まかな流れや、各時代における人々の考え方、生き方を感じ取り、日本のよさに気付くようにする。 ・飛鳥時代や奈良時代などの建築様式や絵画、彫刻などの美術品は、大陸文化の影響を強く受けているが、その後は影響を受けながらも日本独自の文化を生み出してきたことをおさえる。
	一筆一筆に思いを込めて —水墨画で絵手紙を贈る— □ 感じ取る・考える (3)	A 表現 (1)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)アイ	・室町時代の日本の水墨画と中国の作品を比較して、日本独自のよさを味わう。 ・墨の濃淡や筆使いによって、様々な表現ができ、四季の変化による日本の風景や植物を描くと、独特の雰囲気表現することができることを味わう。また、生涯にわたって身近な表現方法になることを理解する。 ・一筆一筆に思いを込めて描くという水墨画の特徴を、絵手紙に発展させる。自分の思いを相手に伝えることのできる表現方法である。
	思いや願いを伝えよう！ —心の風景を描く— □ 感じ取る・考える (8)	A 表現 (1)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)ア	・こうしたい、こうなりたいなど今現在の思いや願いを具体的な言葉にしてスケッチし、それを基にその場面を表す心象絵画とする。 ・2年のこの時期になると「自我」が覚め、思いや願いが強くなる。「自分の心を見つめ、自分自身について再発見できる題材である。鑑賞会を通して、友人のよさに気付いたり考えを知ったりすることもできる。
2	安心・安全・快適な生活 —ユニバーサルデザイン— (1)	B 鑑賞 (1)アイ	・デザインは全ての人を対象に、また様々な場面を想定して考えられている。乳幼児・高齢者・障害者の立場に立つてつくられたものを実際に鑑賞し、ユニバーサルデザインについて考える機会とする。 ・生活を豊かにするデザインと工芸の関係について学ぶことで、日常生活のあらゆるところに美術がかかわっていることを認識する。
	私の秘密の場所 —風景を立体彫刻で表す— □ 感じ取る・考える (9)	A 表現 (1)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)ア	・居て楽しい・嬉しい・ワクワクするような気持ちになる秘密の場所を表現する。 ・粘土や木材を主な材料として、自分自身やその場所にあるものを立体に表す。表したいものに適した材料の選択や用具の扱いについて、知識や技能を活用して計画的に制作する。
	日本を愛した西洋人 —浮世絵と印象派— (2)	B 鑑賞 (1)アイウ	・浮世絵は多版多色木版画で、江戸時代の庶民生活の中から生まれ、単純化された形の美しさや色、大胆な構図が特徴である。19世紀後半に、海を越えて影響を与えた印象派の作品と比較しながら、その芸術性の高さに気付かせ、我が国の文化に誇りをもたせる。 ・モネの「印象日の出」から印象派と呼ばれる画家達の作品を鑑賞することで、それ以前の画風との違いを理解させる。さらに、西洋美術に大きな影響を与えた印象派について理解を深めさせる。
3	受け継いでいこう！ —伝統の色— (1)	B 鑑賞 (1)アウ	・日本の風土や自然によって生まれた祭りや行事には、古くからの色彩や配色の文化があり、受け継がれてきたと伝える。ここでは、埼玉の祭りや行事の伝統色について調べ学習をする。 ・色もたらす感情や影響について自分の価値意識をもって、互いに批評し合う。
	サプライズ フォーユー —飛び出すカードで— □ 伝える・使う (4)	A 表現 (2)ア (3)アイ B 鑑賞 (1)ア	・一年間ともに過ごしたクラスの友人に飛び出すカードを贈る。贈った相手が嬉しさや驚きを表すことで、贈る喜びが味わえる。 ・紙は身近な材料で様々な種類がある。自分の表現にあった紙を選択させることで、独自の表現が可能になる。色のついた紙を使用したり、絵の具以外の描画材を選択して彩色したりする。 ・飛び出すカードは、紙の特徴を生かして、驚きのあるものにならなければならない。制作途中で、試行錯誤しながらつくることができる。
	みんなで学校を彩ろう！！ —共同で行う創造活動— □ □ 伝える・使う (5)	A 表現 (2)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)アイ	・3年生への思いを形や色で伝える。表現として、大きなスタンドグラスやモニュメント、3年生が使用している階段に描く絵画などが考えられる。学校が美しく変わる様を実感できる。 ・友人と話し合い協力して制作に取り組むことで、個人制作では味わうことができない満足感を味わうことができる。 ・完成段階で、作品について制作意図や取り組みの様子などを発表し合う。また、3年生との交流の場としての設定もしたい。

主な指導のねらい	主な指導内容	【共通事項】
<ul style="list-style-type: none"> 日本美術の時代的な大きな流れを理解させ、日本の美術に対する興味・関心を高めさせる。 各時代の文化の特徴を理解させ、人々に大きな影響を与えた作品や、時代によって変化した表現を理解させる。 日本独自の文化のよさを、互いに発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本美術の時代的な大きな流れとその時代の特徴 各時代の美術の特徴と日本独自の文化 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、形や色彩の特徴に視点をおき、自分なりの言葉でよさを伝え合う。イ</p>	<p>（共通事項）例については、主に顕著なものを示した。</p> <p>イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア 形や色彩、材質、光などの性質や、それがもたらす感情を理解すること。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 墨の特性や美しさに興味・関心をもたせるとともに、絵手紙の表現に意欲を高めさせる。 墨の性質を生かした表現と、気持ちを伝えるための効果的な構図や構成を工夫させる。 筆使いや墨の濃淡などの技法や色彩を、表現意図に合わせて工夫して表現させる。 日本独自の表現のよさや絵手紙に込められた作者の思い、よさに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 水墨画の特徴と水墨画の基本的な技能 絵手紙のよさ 構図と彩色の工夫 作品の発表と鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 アイデアスケッチをして構想する場面では、相手に優しさを贈ることを意識して形を工夫する。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを形や色彩で表すための心象絵画に、意欲的に取り組ませる。 思いや願いを具体的な言葉にして、主題を生み出させる。 表現意図に合う表現方法を工夫して表現させる。 作品のよさや美しさ、作者の心情や表現意図に触れ、他者や自己に対する理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いや願いを形にする具体的手段 配色と彩色の工夫 絵の具の特徴と水彩画風の表現方法 互いの作品の鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 構想の場面では、スケッチからイメージをもち、色彩の感情や効果を生かして配色計画をする。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 生活のあらゆるところに美術がかかっていることを認識させる。また、ユニバーサルデザインについて、興味・関心をもたせる。 材料やつくり手の意図、形や色彩、働きなどについて価値意識をもって考えをまとめさせ、互いに批評させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインについて 日常生活における美術の役割 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、美術の働きについてイメージをもち、自分の思いをふくらませて発表する。イ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 立体彫刻に興味・関心をもたせ、意欲的に表現させる。 居たい場所を自由に発想させ、立体的に表現するための構想を練らせる。 表したいものに適した材料の選択や川貝の扱いについて知識や技能を活用して計画的に表現させる。 作品に込められた作者の表現意図について話し合い、よさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチの仕方 材料の選択や用具の使い方 制作における安全面 表現方法の工夫と計画的な制作の仕方 <p>【共通事項】例 創造的な技能を働かせる場面では、自分の表したい感じが表現されているかを確認しながら制作する。イ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 日本独自の浮世絵と西洋美術を大きく変えた印象派について、興味・関心を高めさせる。 印象派に影響を与えた浮世絵の表現方法を理解させ、よさや美しさを感じ取らせる。 印象派が生まれた背景と、浮世絵が与えた影響を理解させるとともに、作品に対する思いや考えを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 浮世絵版画の表現の特徴 多版多色木版画の制作工程 印象派の作品の見方と比較の仕方 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、浮世絵のよさを知り、浮世絵を取り入れた印象派の画家の表現意図を理解する。イ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 日本の風土や自然によって生まれた祭りや行事に使われている色彩について、興味・関心をもたせる。 伝統を大事にしていこうとする考えや態度を養う。 色彩がもたらす感情や影響について自分なりの考えをまとめさせて、互いに批評させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習の仕方とレポートのまとめ方 伝統色の感情 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、伝統色の色彩から受けるイメージをとらえ、自分の思いを言葉にする。イ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 思いや気持ちを素直に相手に伝えることができるカードに興味・関心をもたせる。 受け取る人の気持ちを考えて、飛び出す仕組みやカードの構想を練らせる。 自分の思いや気持ちを表す形や色彩に適した材料や表現方法を選択し、工夫して表現させる。 互いにカードの交換をして、思いや気持ちを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙の特徴と加工方法 飛び出す仕組み 単純化や強調を取り入れた構想の仕方 材料の効果的な利用方法と表現方法の工夫 <p>【共通事項】例 発想や構想をする場面では、伝えたい思いを基に形や色彩を工夫する。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 共同で行う創造活動に意欲的に取り組ませる。 設置場所を考慮して、テーマや材料、表現方法、制作手順の構想を練らせる。 テーマに合う材料や表現方法を工夫して表現させる。 みんなで力を合わせる楽しさや、喜びを味わわせ、発表を通して、作品に込められた思いを感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマの決め方と制作の計画 材料の選択と表現方法の工夫 作品鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 創造的な技能を働かせる場面では、作品全体のイメージをとらえ、思いや考えを伝え合うために制作過程で話し合う。イ</p>	

第3学年

描く活動 作る活動

学期	題材名等(時間)	領域・項目・事項	題材について
1	願いを表す形 —日本の仏像— (2)	B 鑑賞 (1)アイ	・日本の仏像は仏教伝来とともに、様々な国を経て日本文化の中で生まれた美術品であり、文化遺産である。かつて人々は人間の力が遠く及ばない神秘なものの力を借りるために仏像に様々な願いを込めた。形や色彩、ポーズのもつ意味など、仏像に込められた思いを学び、理解を深める。 ・仏像を参考に、自分の願いをポーズで表現する。
	みんなに伝えよう —修学旅行記— 描く 伝える・使う (2)	A 表現 (2)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)アイ	・修学旅行での写真や資料を基に、そこでの体験や感動が見る人に伝わるような「修学旅行記」として発表する。 ・写真、イラストレーション、漫画、映像などの多様な表現方法を活用し、文章と組み合わせる。また、生徒の能力や経験に合わせて、コンピュータを利用し、図や絵、写真、映像などを挿入しまとめる方法も選択させる。その際、著作権や人権にかかわる情報モラルの学習を含めるようにする。
	自分を見つめてI —平面表現・自画像— 描く 感じ取る・考える (9)	A 表現 (1)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)アイ	・「自分とは何だろう」の課題に取り組み、自分自身と向き合いながら深く自己の内面を見つめて、自分を表現する自画像とする。 ・中学校生活の思い出や将来への夢や希望、社会と自分とのかかわりなど、幅広く感じ取ったことから表現主題を決定させる。 ・いろいろな材料や用具の特性を生かし表現方法の工夫を行うなどして、主題に合った個性豊かな自画像を描く。
2	自分を見つめてII —立体表現・心の形— 作る 感じ取る・考える (9)	A 表現 (1)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)アイ	・自画像に続き「自分とは何だろう」の課題に取り組み。揺れ動く15才の自分の心を見つめ、イメージをとらえる。その際、長所や短所、自分を見つめた感情を文章で表し、表現の意図を深める。 ・材料の軟石と木については、創造的な構成を工夫し表現する。スケッチを繰り返して形の単純化や強調を行い、簡潔で象徴的な形の抽象的な表現とする。
	わたしたちはアートレポーター —作品からのメッセージ— (2)	B 鑑賞 (1)アイウ	・日本や世界の美術作品の中から、造形的なよさや美しさを感じる作品を選び、その作品についての見方を深める。作品からのメッセージを深く捉えるために、作者や表現の工夫について調べ、発表し批評し合う。 ・資料やインターネットを利用して調べ、まとめる。
	建築の美学 —文化遺産について学ぶ— (1)	B 鑑賞 (1)アイウ	・美術の広がりの中で、特に建築はその機能とともに、国や地域、民族の違いにより独自のよさや美しさがある。このような建築のよさや美しさについて学習させる。 ・奈良東大寺の「大仏殿」とガウディーの「サグラダ・ファミリア教会」の相違と共通性に気付かせ理解させる。また、それらを受け継いで守る人たちの思いを通して、美術文化の継承と美術を通じた国際理解を深める。
3	感謝の心を贈る —使う人の気持ちを考えて— 描く 作る 伝える・使う (9)	A 表現 (2)アイ (3)アイ B 鑑賞 (1)アイ	・中学校卒業を迎え、お世話になった人に感謝の気持ちを込めて、贈り物をつくる。お世話になった人が、どのようなものを望んでいるか、どのような場面で使用したいかなどを深く検討しながら発想や構想をさせる。 ・目的や機能に応じて必要な材料を吟味し選択する。制作から使用までの行程を総合的に考え企画し、見直しをもって表現する。
	環境のデザイン —未来に向けた創造— (1)	B 鑑賞 (1)アイウ	・美術の広がりの中で、生活に潤いをもたらす心を豊かにする環境のデザインを学ぶ。 ・イサム・ノグチが設計した「モエレ沼公園」は、環境そのものを造形とする考え方に基つき、ごみ集積所であった丘陵地帯を公園へ再生させたものである。実際に生活する地域と造形に目を向け、環境の中の造形の働きを学ばせる。

主な指導のねらい	主な指導内容	【共通事項】
<ul style="list-style-type: none"> 日本の仏像の歴史や造形に興味・関心をもたせる。 自分の願いを表現する仏像を構想させ、自分なりのポーズで仏像をつくらせる。 人々の願いが込められた仏像のよさや美しさ、互いの表現のよさを感じ取り味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の仏像の歴史と種類 仏像の特徴（衣装、持ち物、ポーズ、印相） デジタルカメラの活用の仕方 発表と鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、仏像全体の形や手の表情を観察し、イメージをとらえる。イ</p>	<p>イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる。イ</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それがもたらす感情を理解する。ア</p> <p>【共通事項】例については、主に顕著なものを示した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行の思い出や感動をまとめ、人に伝えることの喜びを味わわせる。 伝えたい内容を多くの人に伝えるために、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想をさせる。 材料や用具の特性を生かし自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして表現させる。 互いの作品を鑑賞し、よさを感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成と資料や写真の活用の仕方 イラストレーションや漫画の表現の活用 コンピュータを使った制作の方法と、著作権や人権などにかかわる情報モラル 発表と鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 構想の場面では、材料の性質や表現の効果を理解する。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 自分自身を深く見つめ表現する活動に、興味・関心をもたせる。 自分の気持ちや心の中を見つめ、主題を生み出し、心豊かな構想をさせる。 材料や用具の特性を生かし、表現方法の工夫を図り創造的に表現させる。 参考作品や互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取り味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題に合った構想の練り方、画面構成の仕方 用具の使い方と制作の手順 多様な表現方法と材料の生かし方、使い方 参考作品や互いの作品の鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 発想の場面では、自分の感情から形や色彩のイメージをとらえる。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の心を簡潔で象徴的な形に表現することに、興味・関心をもたせる。 自分の心を深く見つめ、主題を生み出させる。 材料や用具を使って構想し、創造的に表現させる。 参考作品や互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取り味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔で象徴的な形の創造と構想の練り方 材料の生かし方、用具の使い方 参考作品や互いの作品の鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 構想の場面では、形がもたらす感情を理解する。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の美術作品の造形的なよさや美しさに興味・関心をもたせる。 作品のよさや美しさとともに、作者の心情や表現意図と創造的な工夫に気づき、見方を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料やコンピュータを使った調べ学習の方法 レポートのまとめ方 <p>【共通事項】例 見方や感じ方を深める場面では、作品の形や色彩の特徴などを基にイメージをとらえる。イ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 美術文化について興味・関心をもたせる。 奈良東大寺の「大仏殿」と、ガウディーの「サグラダ・ファミリア教会」の相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術文化の継承と国際理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国による美術や文化の相違と共通性 美術文化の継承と国際理解 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、奈良東大寺の「大仏殿」とガウディーの「サグラダ・ファミリア教会」の形の特徴などを基にイメージをとらえる。イ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 生活の中のデザインや工芸に関心を深めさせる。 使用する者の気持ちや機能を考え、表現の構想を練らせる。 材料や用具の選択を含め、制作の順序など総合的に表現させる。 参考作品や互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取り味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使う目的や機能と、デザインの効果 材料や用具の使い方と制作の順序 参考作品や友人の作品の鑑賞の仕方 <p>【共通事項】例 構想の場面では、使用する者の気持ちや考え、形や色彩、材料などの性質を理解する。ア</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 環境とデザインについて興味関心をもたせる。 イサム・ノグチの考え方や、設計した「モエレ沼公園」から環境の中の造形の働きについて学ばせる。 生活する身近な地域にある造形的な美しさに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> イサム・ノグチの考え方 環境の中の造形の働き 自然との共生 <p>【共通事項】例 見方を深める場面では、「モエレ沼公園」の全体的な特徴を基にイメージをとらえる。イ</p>	

【資料2】

4 年間指導計画例の内容構成

「A表現」指導計画例の内容構成

A表現	(1)と(3)				(2)と(3)			
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、 絵や彫刻などに表現する活動				伝える、使うなどの目的や機能を考え、 デザインや工芸などに表現する活動			
学年	描く活動	時数	つくる活動	時数	描く活動	時数	つくる活動	時数
第1学年	広がりのある風景	6	ピアノを奏でる手	6	季節の色・季節の形			5
	私の友だち、紹介します	5			思いを込めて贈ります	5	炎がつくる光の造形	5
	描いて写して	6			埼玉県立近代美術館に行こう	2		
第2学年	一筆一筆に思いを込めて	3	私の秘密の場所	9	サプライズ フォーユー			4
	思いや願いを伝えよう！	8					みんなで学校を彩ろう！	5
第3学年	自分を見つめてⅠ	9	自分を見つめてⅡ	9	みんなに伝えよう	2		
					感謝の心を贈る			9

「B鑑賞」指導計画例の内容構成

B鑑賞	(1)		
	美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動		
学年	題材名等	時数	
第1学年	オリエンテーション	アイ	1
	埼玉県立近代美術館に行こう	アイ	1
	なるほど！デザイン	アイ	1
	粋なデザイン	アイ	2
第2学年	日本の魅力	アウ	2
	安心・安全・快適な生活	アイ	1
	日本を愛した西洋人	アウ	2
	受け継いでいこう！	アウ	1
第3学年	願いを表す形	アウ	2
	わたしたちはアートレポーター	アウ	2
	建築の美学	アイウ	1
	環境のデザイン	アイウ	1

※ 表現題材を設定する場合は、「A表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する項目と、(3)の創造的な技能に関する項目はそれぞれ単独で指導するものではなく、(1)又は(2)の一方と、(3)は原則として関連付けて行う。

ここでいう「描く活動」とは、スケッチや絵及びグラフィックなデザインなど平面上に描くことを主とするが、立体の表面に描くことも含まれる。また、「つくる活動」とは主として彫刻や工芸、立体的デザインなどの立体的な表現のことである。さらに、描く活動とつくる活動の両方を取り入れた表現も可能である。

各内容の指導においては、描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにし、描く活動とつくる活動の学習に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成することが大切である。

「B鑑賞」に充てる授業時数は、「適切かつ十分な授業時数を確保すること」としている。